

“心ない視線”と“心ない言葉”

2003年8月12日

障害を持って普通に生活をしていくという事は、結構大変な面や不便な事がたくさんあると思います。“目が不自由な人の不便さ”や“耳の不自由な人の不便さ”そして“身体の不自由な人の不便さ”っていうのはそれぞれに違うと思いますが・・・私は、身体は不自由ですが目も見えるし耳も聞こえる、車椅子にも乗れるから、それだけでラッキーだと感謝しています。(^_^)v

身体は痛いし自由に動く事が出来ないとか、どこに行っても段差やトイレが大変だとか、一人で出掛けたくても介助が無くては無理だとか、細かい事を言えば、タオルを絞る事さえ出来ない、な～んていう不便な事や不満をあげれば、数え切れない程あるんです。でも、それらは自分の身体の問題だったり気持ちの問題だったりするので、自分で考えて“解消”していかなくちやなりません。痛いのは自分持ちだし、他人に分かってもらおうと思っても無理！！

片手でも何とか握って水を切ることが出来るタオルを見つけたり、車椅子の肘掛に針を刺して糸を通したり、いろんな事を工夫して出来ない事が出来るようになってくると、何だか少しずつ楽しくなってきました。そうやって1つずつ出来る事を増やしていくと、生活するうえでの不便さは、工夫しだいである程度は“解消”出来てくるもんです。ただ、工夫しても考えても、ど～やっても“解決”出来ない事があります。それは、「他人の目であったり、言葉であったり、態度！！」

口が悪いとか^{がん}眼を飛ばすって事ではないんですよ？？^{がん}眼なら私だって飛ばしていたし！今だって飛ばされたら飛ばし返すし！！それに、口が悪いのは^{天下一品}だし！！ってか？？（自慢にならん？）

道子ちゃんの場合、昔から生意気で派手だったもんだから、人にジロジロ見られたり睨まれたりするの日常茶飯事で慣れっこなんです。でも、ケガをしてから私が受ける他人の視線ってのは以前のものとは全然違う。時には哀れむような視線だったり、また、人として一段低く見るような視線だったりして・・・（決して、卑屈になってる訳ではございません！）

車椅子に触りたくて寄って来た子供に、親が「危ないから、こっちおいで！」と、嫌な顔して手を引っ張って行ったり、最悪は「ダメッ！ひかれるよ！」だとサ。こっちは危ないと思って電源切ってブレーキかけて待ってたんだいっ！！（ふざけんよ～！）

そんな親に限って、子供が大きくなったら、「お年寄りとか、身体の不自由な人には親切にするんだよ」何て事をほざくんでしょネ？？（遅いわいっ！！）

私みたいに「何だと～！」って、食ってかかれる奴はいいかも知れないけど、身体が不自由だって事で自信がなく控えめな人だったら、傷付いたり、もっともっと自信が持てなくなって、外に出るのがイヤになっちゃうかも？？(^_^);

あちこち^{バリアフリー}になって、「障害者もどンドン外へ・・・」とは言うものの、障害者が外に出ないんじゃないかと、世間の人々の眼や口、そして態度が出て行けないようにしてるんじゃないのかい？？と私は言いたいヨ。（そんな人ばかりじゃないし、障害者側にも問題のある人はいるけど・・・）

身体や心に障害を持っていないくたって、人間って弱いもんです。刃物を使わなくたって、暴力を振るわなくたって、言葉や態度（例えばシカト）で、人を殺す事だって出来るんだから怖いもんだネ。（道子ちゃん言葉に傷付いてる人も多分・・・ゴメンなちゃい！！）

まあ、そんな話しを「チラッ！」っと、頭の片隅において日常生活をちょっぴり振り返って見てはどんなもんでしょうか？？

道子ちゃんは、日々反省！！m()m

ボランティアの輪・あんだんて 島 道子